

## CIEC 第 113 回研究会報告

### 【開催概要】

テーマ 学びのコミュニティの場：ラーニング・コモンズ

～アクティブ・ラーニングを支援する学びの空間づくり～

開催日 2017 年 10 月 22 日(日) 13:00 - 16:00

会場名 京都女子大学新図書館（京都府京都市東山区今熊野北日吉町 35）

### プログラム

13:00 - 13:05 開会挨拶・趣旨説明

13:05 - 13:40 施設説明・見学 五十嵐 勇 氏（京都女子大学 図書課長）

13:40 - 14:40 講演 ラーニング・コモンズ：多様な学びを支援する空間  
福永 智子 氏（椋山女学園大学文化情報学部文化情報学科 教授 図書館長）

15:00 - 15:50 質疑応答およびディスカッション

司会：尾池 佳子（八王子市立下柚木小学校・CIEC 小中高部会世話人）

### 【開催報告】

プログラム前半は、京都女子大学図書課長五十嵐勇氏による施設説明が行われた。図書館改築にあたり、滞在型の図書館、長くとどまって学べる空間の創造が大きなコンセプトとなっていること、知恵の蔵と呼ばれる従来の図書館空間と交流の床と呼ばれる、活発に活動できる学習空間とのゾーニングを行なっていることが特徴であると述べられた。交流の床の 1 階ホール（写真 1）は公開講座やプレゼンテーションが行える空間になっていて、同じフロアにはアクティブラーニングコモンズ、地下 1 階にはメディアコモンズ、2 階には飲食も可能なカジュアルスタディスペースが用意されている。図書館改築のコンセプトとフロアの特徴の説明後、施設見学を行った。



写真 1：交流の床 1 階ホール

交流の床 1 階奥にはアクティブラーニングコモンズ（写真 2）が設置されている。またアクティブラーニングコモンズの壁面には情報検索用のノートパソコンが設置されている（写真 3）。また、地下には自動化書庫があり約 60 万冊収蔵できる。



写真 2：アクティブラーニングコモンズ



写真 3：情報検索性 PC

地下 1 階にはメディアコモンズ(写真 4)が用意されていて、視聴覚機器の利用が可能であり、学生がプレゼンテーションできるようにモニタなども用意されている。学生がグループワークをする際に自由に移動できる机と椅子を配置されている。またガラスで区切られたメディアルームが 2 室用意されている(写真 5)。



写真 4：移動可能な机と椅子



写真 5：ガラスで区切られたメディアルーム

交流の床と隣り合う、別棟には知恵の蔵と呼ばれる従来型の図書館(写真 6)があり、静かに検索したり、資料を調べたり、閲覧したりする空間になっている。自動貸出機を導入したことにより、リファレンスサービスなど対面サービスに注力できるようにしたことが特徴である。

交流の床 2 階はカジュアルスタディスペースと呼ばれる空間で、ここでは飲食もディスカッションも自由に行うことができ、若い人の学習スタイルに合わせた空間を提供している(写真 7-9)。カジュアルスタディスペースに設置されているカフェは学生により運営されている。

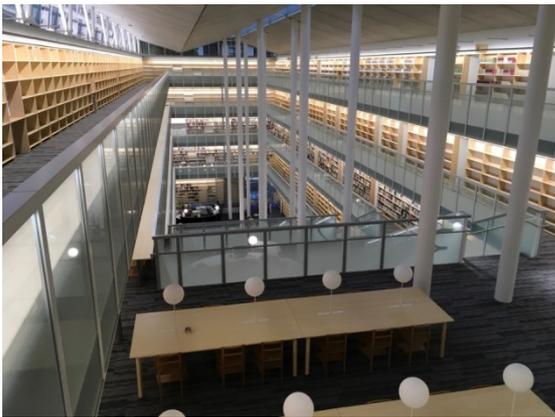


写真 6：知恵の蔵 4 階



写真 7：カジュアルスタディスペース



写真 8：カジュアルスタディスペース



写真 9：学生が運営するカフェ

プログラム後半では、椋山女学園大学文化情報学部文化情報学科教授で図書館長の福永智子氏から「ラーニング・コモンズ：多様な学びを支援する空間」について講演があった。ラーニング・コモンズ登場のきっかけとして「学術情報の電子化・学士課程教育の質的転換・大学生の学びの変化」の3つが考えられると述べられた。1つ目の学術情報の電子化では、情報源が従来の紙媒体とデジタル情報（ネット+有料DB等）になり、情報検索が複雑化したこと、2つ目の学士課程教育の質的転換では、成熟社会において求められる資質として、答えのない問題に対して解を見出していく批判的・合理的な思考力、チームワークやリーダーシップを發揮して社会的な責任を担う能力などの学士力が求められること、3つ目の大学生の学びの変化では、学生が24時間インターネットにつながり、PC等を所持していく中で、学習のスタイルがグループワークで行うものが増えていることや論文等のライティングサポートへの対応をしていく必要があることがラーニング・コモンズ登場の背景になっている。

次に、ラーニング・コモンズの要件として必要なことが挙げられた。第1に物理的な要素として、PC、無線LAN、プロジェクタ、プリンタなど電子情報にアクセスできる機材、可動な机、

椅子、間仕切り、ホワイトボードなどグループ学習に対応する会話可能な空間、カフェ等の設置、飲料可能にすること、お手洗いを綺麗にすることなど滞在型図書館にすることがある。第2に人的支援として従来通りのレファレンスサービスに加えて、ライティング支援やコンピュータ支援など大学院生等が常駐して、資料探し、プレゼン、レポートの執筆にいたるまで学生の学習活動の疑問に答えることが必要である。ラーニング・コモنزの設置場所を館内に置くか、館外に置くかは重要な問題であり、図書館内にコモنزを設置する意義や問題点について提起された。問題点としては、「学部学生の学習にはデジタル情報だけでは不十分であり、従来の紙媒体資料も使える環境が必要であること。コモنزをつくっても、コピーでレポートを書くようでは本末転倒であること。レポートの書き方を高校まででしっかり習っていない学生が多いため電子情報と紙媒体資料の両方について情報収集や利用の支援が必要であること。」などが挙げられた。

続けて、ラーニング・コモنزが提供する空間の新しい機能について3点述べられた。1つ目は学生の自主学習の場になること、2つ目はアクティブラーニングのための新たな教室空間になること、3つめは大学における居場所をつくること。高校生までと異なり、大学生は決まった居場所がなく、学内のどこかを移動している。図書館が大学生活の場になる機能を果たしており、椙山女学園大学では3つめの機能を果たしていることが多い。

ラーニング・コモنزの実際について、平成26年3月に設置された椙山女学園大学の取り組みを紹介された。椙山女学園大学では地上が会話空間、地下が静寂空間と住み分けされており、1階にラーニング・コモنز、ラーニングエリア、ブラウジングコーナー、AVコーナーが設けられている。2階では絵本コーナーがあり、保育や司書課程の学生が読み聞かせの練習などで利用が可能となっている。またリーディングエリアではグループで資料を広げ作業ができるようになっている。3階はレファレンス室になっていて情報検索性PC等が設置されている。また6-8人で利用可能なグループワーク室が設置されている。一方、静寂空間として地下1階と2階があり、地下1階のラーニングエリアは1席ずつ仕切りがされ、静かに勉強するエリアになっている。椙山女学園大学のラーニング・コモنزでは、図書館ツアーとデータベース講習会が行われている。ラーニング・コモنز設置後の利用状況は貸出冊数、入館者数とも増えてはいるが、劇的には増えていない現状がある。ラーニング・コモنزの評価については、「リラックスできる、作業しやすい、雰囲気が良い、充電ができる、水分が取れる」、また女子大の傾向として「他人の視線が気にならない」などがある一方、「うるさい、本が使いにくい、雰囲気がよくない」など改修前を知る上級生からの意見もあった。ラーニング・コモنزを設置したことにより着座行為率が増加したこと、個人学習の場の選択肢が増えたことなどの変化が見られた。施設上の問題点以外にも教学や教務委員会との連携が必要なこと、全学的な協働的な取り組みをしていくことでラーニング・コモنزとしての機能が向上していくと結論づけられていた。

講演後のパネルディスカッション・質疑応答では、五十嵐氏から、図書館が好きな人には静かに勉強したい、本を読みたいという人もいるので、コモンズが作られ能動的な活動が行われることを嫌う人がいる。そのため利用者に配慮した音のコントロールの苦慮しながら共存をはかっていることが述べられた。また福永氏からはラーニング・コモンズを運営していく上で学生からの意見の紹介や教学や教務との調整やアクティブラーニングを進めていく上での課題などが述べられ、研究会は終了した。

(文：森棟 隆一 白百合学園中学高等学校・CIEC 小中高部会)